

令和7年10月28日

第13回定例会資料

報告事項3

第2回徳島県公立高等学校の在り方検討会議 の概要について

徳島県教育委員会教育創生課

第2回徳島県公立高等学校の在り方検討会議の概要について

1 日 時 令和7年10月17日（金） 午後1時から午後3時30分まで

2 場 所 徳島県庁 10階 大会議室（徳島市万代町1丁目1番地）

3 出席者

- (1) 委員 16名中13名出席（欠席3名）
- (2) 県 教育次長、教育創生課長 ほか

4 議 題

- (1) アンケート結果およびタウンミーティング結果について
- (2) さらなる特色化・魅力化について
- (3) 学校規模・配置について
- (4) その他

5 意見交換における主な発言概要

- (1) さらなる特色化・魅力化
 - 県内公立高校の進学状況や実績を見ると、教育水準の低下が懸念される。このことは本県産業の競争力にも大きく影響しており、特色化・魅力化の取組以上に、学力向上を最優先課題として位置付けるべき。
 - 日本の高校生には、「今日頑張らなくても明日何も変わらない」という感覚が根強い。どのような特色を持つ高校においても、地域や産業界などと連携し、実践的な体験の機会をつくることで、目的意識を持って学ぶ意欲を育むことが重要。
 - 各高校の特色を際立たせ、生徒の「やりたいこと」を丁寧に捉えながら、生徒の資質・能力を十分に伸ばし切る高校を作っていくことが重要。
 - 新学科・コースの検討においては、本県が育成を目指す人財像を考慮し、総合的・探究的な学びやSTEAM教育に加え、地域課題を世界規模の視点から捉えて解決策を考えるグローバルな視点からの学びを重視すべき。
 - 特色化・魅力化の鍵は予算化にあり、全国の事例から、教育資源を確保するためには、国の予算活用や市町村の参画、産業界との連携が必要。
 - 本県では、スポーツ、文化芸術、学力の各分野でのリーディングハイスクールがそれぞれ指定されており、それらの学校の取組をさらに充実させるためには継続的な支援が必要。
 - 県内の校舎整備の状況や今後の高校無償化および学区撤廃による影響を踏まえ、県西部や県南部における高校の施設・設備の充実に優先的に取り組むべき。
 - 各地域の教育及び医療を担う人材の育成のために、鳴門高校の取組や他県の事例を参考に学びの機会確保を検討してはどうか。
 - 今後のさらなる人口減少を見据え、本県における産業構造の将来的な変化や、エッセンシャルワーカーの不足への対応といった視点も必要。

(2) 学校規模・配置

【適正な学校規模・配置について】

- 公立高校として、進路実現に必要な最低限の選択科目や、十分な指導体制を全県の生徒に保証するとともに、対面での日常的な集団生活において表現力や判断力、対人関係スキルなどを育成するためには、一定の学校規模が必要。
- 各地域の生徒数がさらに減少する中、現在の高校配置を維持するのは難しいと考えられる。限られた教育資源を、全県的な視点から最も教育効果が高まるよう、戦略的に投入すべきであることから、学校規模や再編に関する基準等の設定が必要。
- 教育的観点からは学校規模は多様であっていいと考えるが、財政的観点から経営資源をどう振り分けるかという現実的な課題があり、両面からの検討が必要。
- 基準については、県下一律ではなく、通学時間や地域唯一の高校であるといった地理的条件に加え、市町村が県とともに人や予算を投じて学校を支える意欲の有無を、重要な判断基準とすべき。
- 通学可能な範囲に小規模校もあれば一定規模の学校もあるといったように、学校規模についての多様性が確保されることが望ましい。

次の内容について、委員間での共通認識が図られた。

- ・現在の高校配置は持続可能ではない。すべての高校の規模を先細りさせることになるため、学校規模の見直しと再編は不可避であり、公平性と全県的な納得が得られる明確な基準設定が必要。
- ・基準の適用については、各地域の実情を鑑み、全県一律とせず、地域からの支援や学校の特性等に応じてきめ細かく設定・運用すべき。

【拠点校の指定・整備について】

- どこに居住していても、通学可能な範囲に行きたい学校があることを実現できるよう、拠点校を各地域に配置しておく必要があり、学校規模は4～5学級の維持が望ましい。
- 拠点校が各地域の教育の拠点となるのであれば、普通科以外の学科の設置や教員配置を含めた検討が必要。
- 拠点校化については、例えば、単に「3校のうち2校を廃止する」との発想だけでなく、「新たにキャンパスを整備して1校をつくる」「複数のキャンパスをもつ1校にする」といった選択肢もあることから、各地域の実情に応じた最適な方法を選択すべき。
- 教育環境の公平性の観点から、県西部・南部における拠点校の指定・整備が必要であり、それが学区撤廃への対応策になると考えられる。

次の内容について、委員間での共通認識が図られた。

- ・地域における拠点校の設置を進める必要があり、今後は、拠点校の具体的なイメージを整理すべき。

第 1 回徳島県公立高等学校の在り方検討会議の概要について

1 日 時 令和 7 年 7 月 3 0 日（水） 午後 1 時 3 0 分から午後 4 時まで

2 場 所 徳島県庁 1 0 階 大会議室（徳島市万代町 1 丁目 1 番地）

3 出席者

- (1) 委員 1 6 名中 1 4 名出席（欠席 2 名）
- (2) 県 教育長、教育次長、教育創生課長 ほか

4 議 題

- (1) 会長・副会長の選出（会長：佐古秀一委員、副会長：金西計英委員）
- (2) 本県公立高等学校の現状について
- (3) 公立高等学校に求められる役割について
- (4) 公立高等学校のさらなる特色化・魅力化について
- (5) その他

5 岩本委員（一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム 代表理事）による 全国の高校魅力化の取組動向などの話題提供

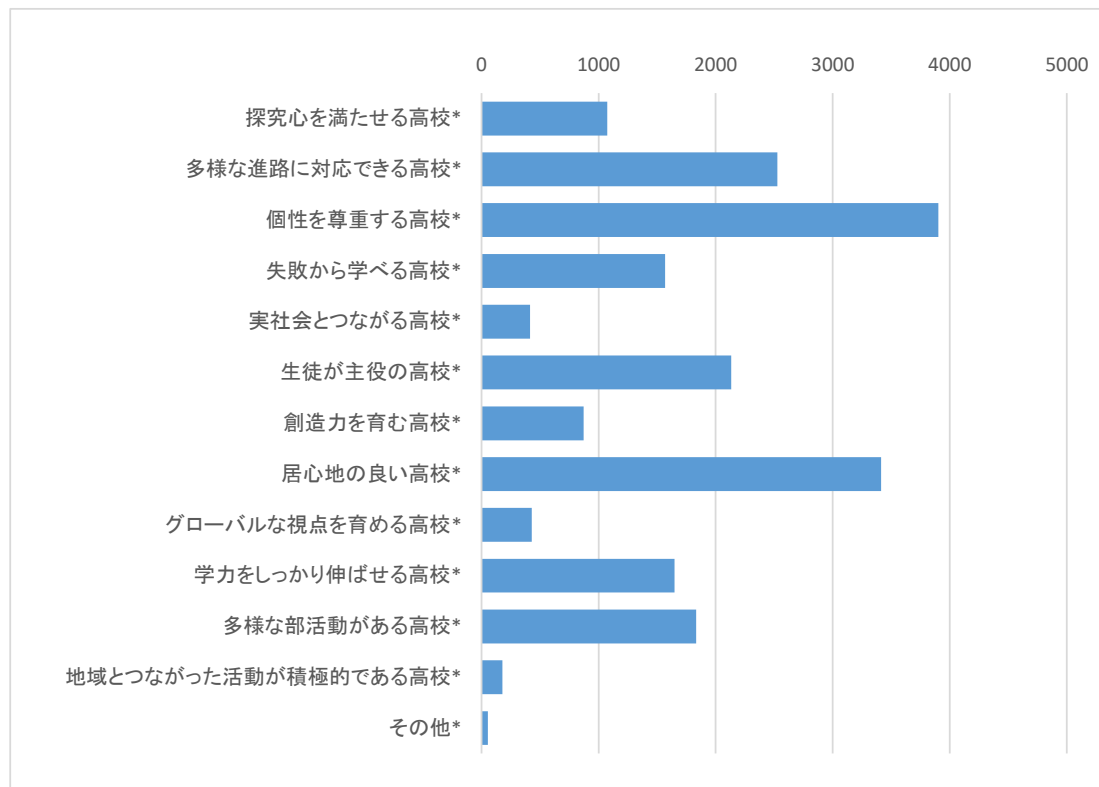
- 生徒を主語に考えれば、生徒が望む、生徒自身にとって適正な学校規模は多様である。
- 存続の危機にあった公立高校において、コーディネーターの配置や地域留学などにより、質の高い教育の実現や全国からの若者に選ばれる魅力ある高校づくり・地域づくりにつながった事例が見られる。
- 高等学校と地域・社会は、会議等で発言するだけの「協議体制」を越えて、目標を共有し、資源も出し合いながら事業・活動も行う「協働体制」を構築・運用していく必要がある。
- 私立高校無償化の影響により、都市部の私学や私立広域通信制高校への生徒の流出が懸念されることから、地域唯一の公立高校や専門高校に対して、その魅力を最大限に引き出すための抜本的な支援策を講じるべきと考える。
- 広報戦略として、地元向けには情報発信のため総花的に見せつつ、大都市圏では学校の特色ある強みを戦略的にアピールすることが重要である。
- 生徒数減少の危機感を共有するだけでなく、生徒、学校、地域にとってメリットとなるビジョンを対話を通じて共に創り出す必要がある。そのビジョンによる取組の成果が生徒の成長や変化として表れることで、地域の一般の方々も巻き込み、行動を促すことができる。

6 意見交換における主な発言概要

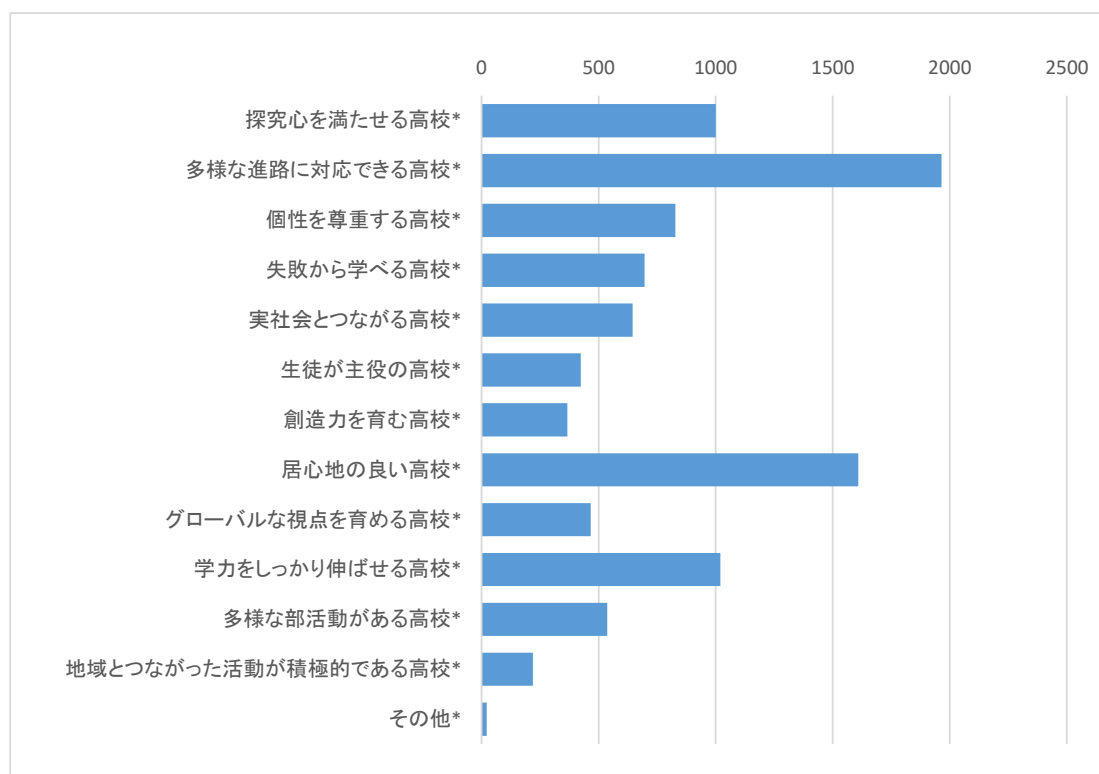
- 公立高校の課題は、教育の枠組みだけでなく、経済界など社会全体が危機感を共有し、本気で取り組むべき、より大きな問題として捉える必要がある。
- 生徒一人一人の夢や目標を実現できるよう、学びを支援し、必要な学力や技能を身に付けられる環境を整えるべきと考える。多様な体験活動を通じて、社会に溶け込む力を培ってもらいたい。
- 全国の先進事例が示すように、高校魅力化を推進するには、コーディネーターの配置が不可欠である。本県においても、県教委と地元自治体が連携して、学校と地域をつなぐコーディネーターが配置できる体制の構築を進めていただきたい。
- 学校現場では、働き方改革が進められているが、さらなる特色化・魅力化を進めるための人的・物的な支援が不足している。コーディネーターの配置に係る予算も含め、財政支援策の検討を進めるべきである。
- 県内の公立高校では、すでに自治体や高等教育機関と連携した特色ある取組が実施されている。その特色・魅力を明確に打ち出すため、新しい学科やコースの設置を検討する必要がある。
- 生徒が目的意識を持って高校を選択できるよう、小・中学校からのキャリア教育が重要である。また、各高校の取組が中学生や保護者などに十分に伝わる効果的な情報発信が必要である。
- 地域との連携・協働を進める上で、コミュニティ・スクールを効果的に機能させることが重要である。学校運営協議会を、子どもたちのために何ができるかという当事者意識を持って話し合える場にするべきと考える。
- 徳島市内の普通科高校の教育課程には、新しい取組を行うだけの時間的余裕が少ないと感じる。学校の先生、コーディネーター、県や地元自治体といった多様な関係者が、それぞれの学校や地域がどのような学びを目指すのか、現実的に考える必要がある。
- 海部高校に入学してくる地元の生徒は、小学校から中学校まで人間関係がほぼ固定化している。しかし、高校では県外や県内の他地域からの入学者も多数おり、多様な交流の機会が生まれ、それが生徒の成長につながっていると考えられる。

問 あなたが「こんな高校だったらいいな」と思うのは、どのような高校ですか？
 当てはまるものを3つまで選んでください。すでにある項目以外にも、「その他」の欄に自由に記入してください。

(1) 中学生 有効回答数(7,081、62.85%)

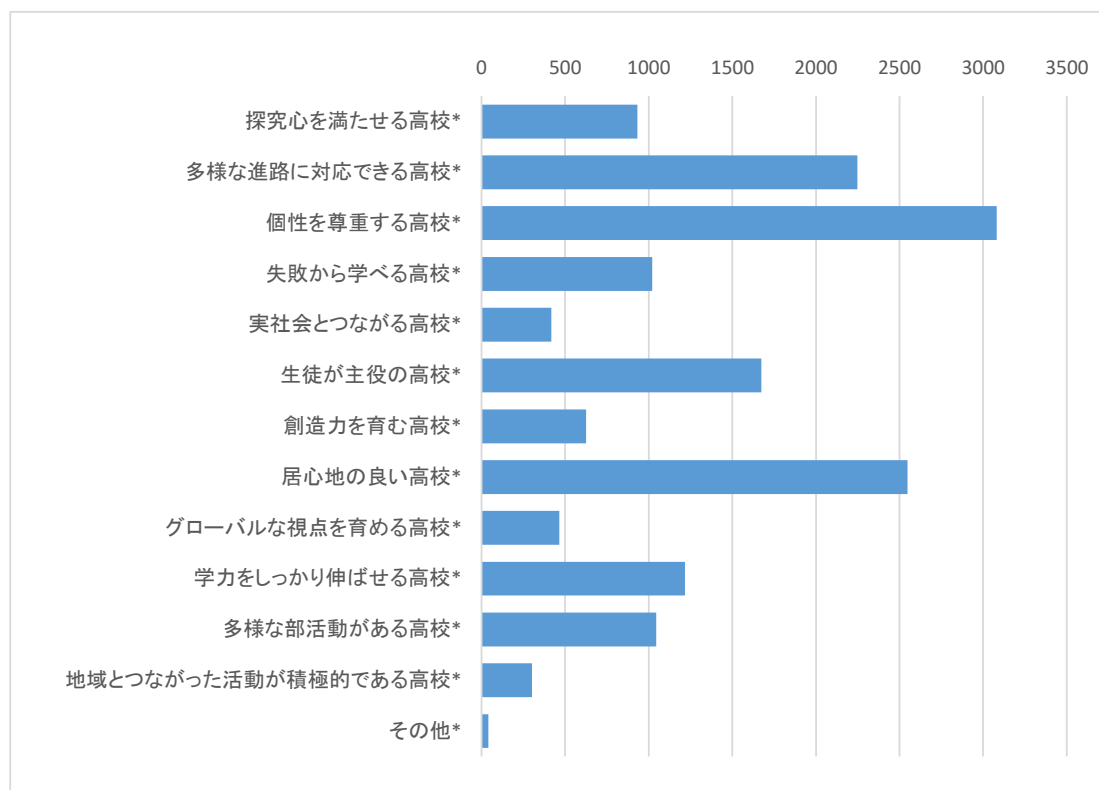


(2) 中学保護者 有効回答数(3,463)

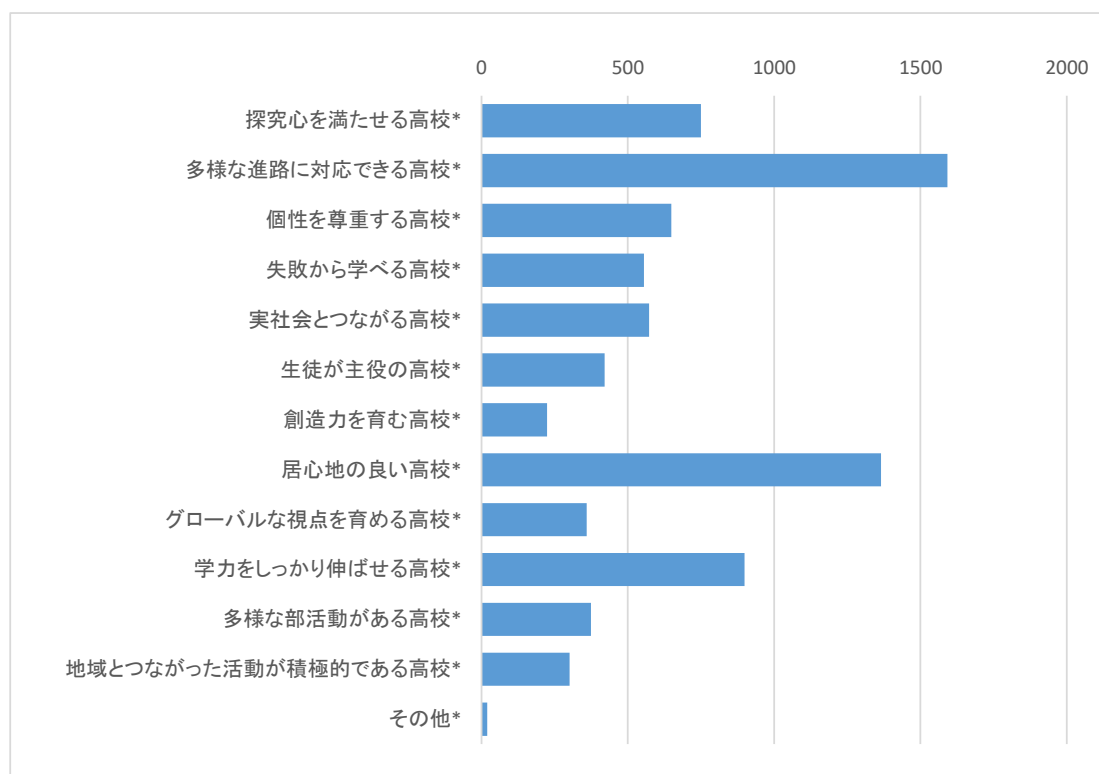


問 あなたが「こんな高校だったらいいな」と思うのは、どのような高校ですか？
 当てはまるものを3つまで選んでください。すでにある項目以外にも、「その他」の欄に自由に記入してください。

(3) 高校生 有効回答数(5,784、54.69%)

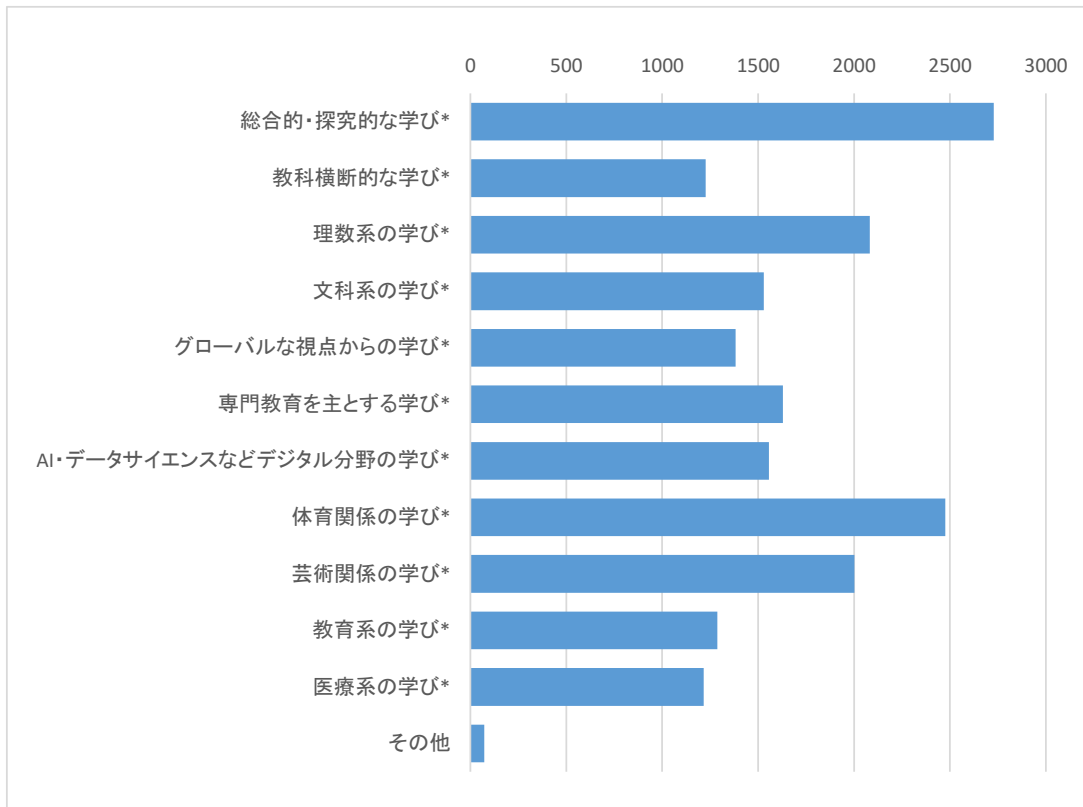


(4) 高校保護者 有効回答数(2,836)

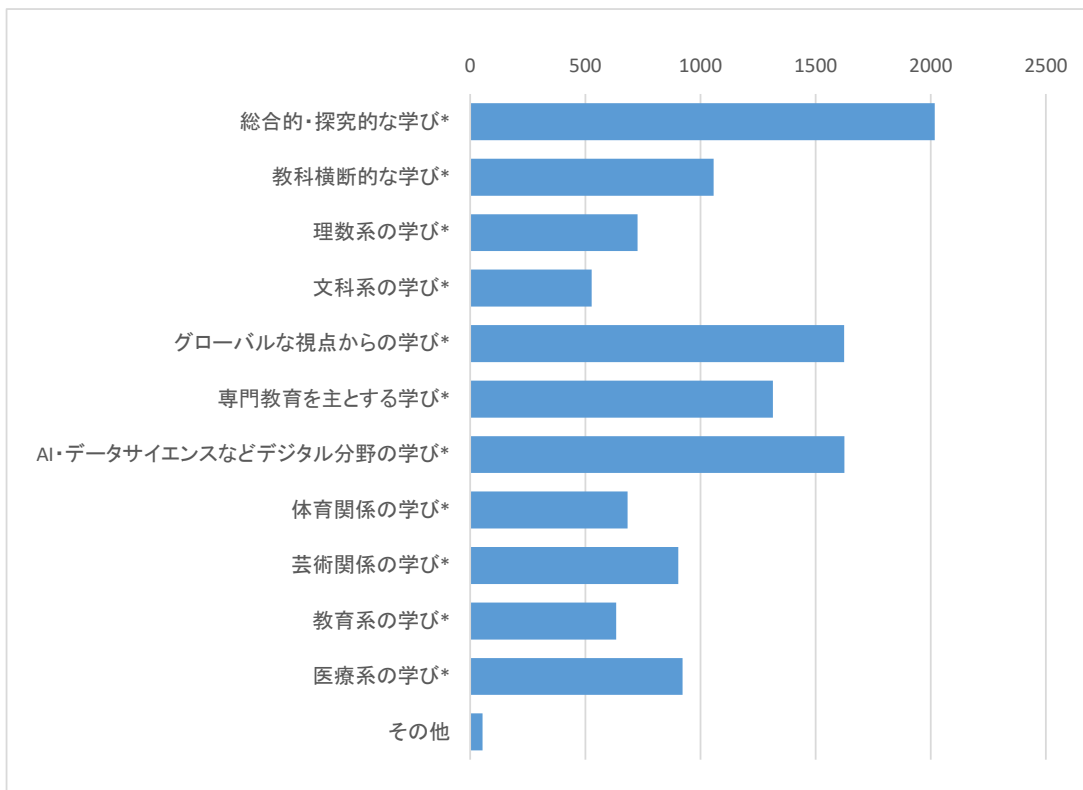


問 あなたが高校において「こんな学科やコースがあるといいな」と思うのは、どのような学びを重視した学科やコースですか？ 当てはまるものをすべて選んでください。すでにある項目以外にも、「その他」の欄に自由に記入してください。

(1) 中学生 有効回答数(7,081、62.85%)

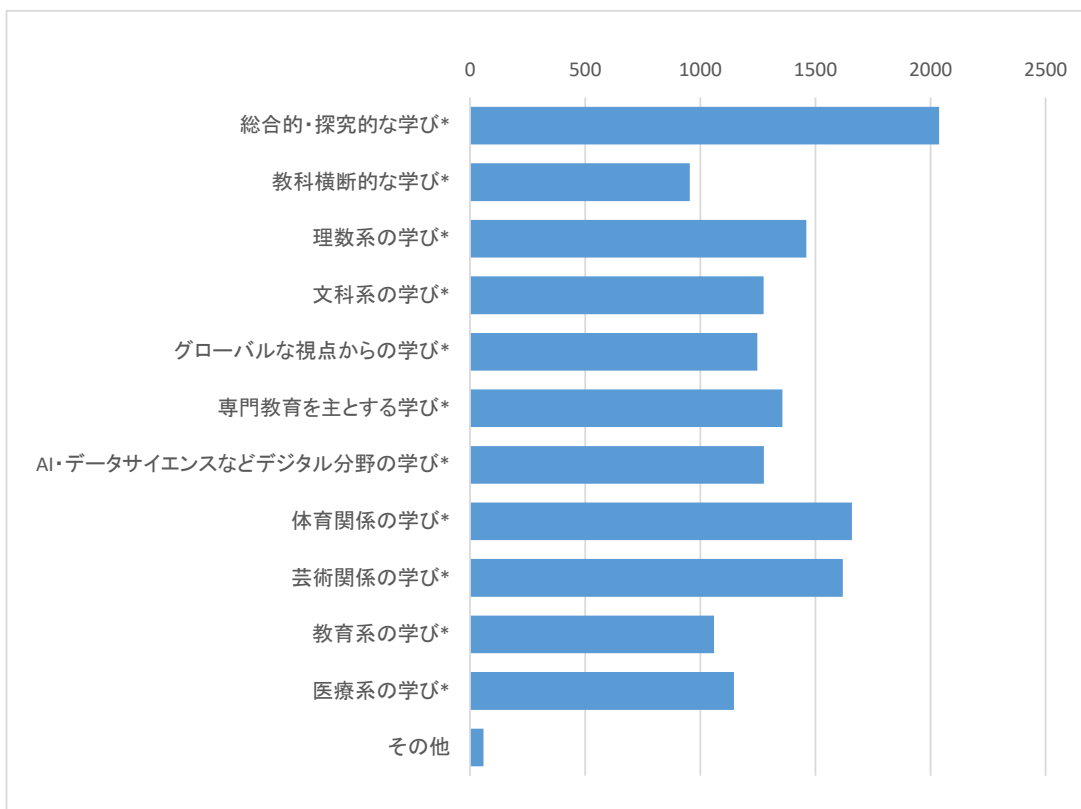


(2) 中学保護者 有効回答数(3,463)

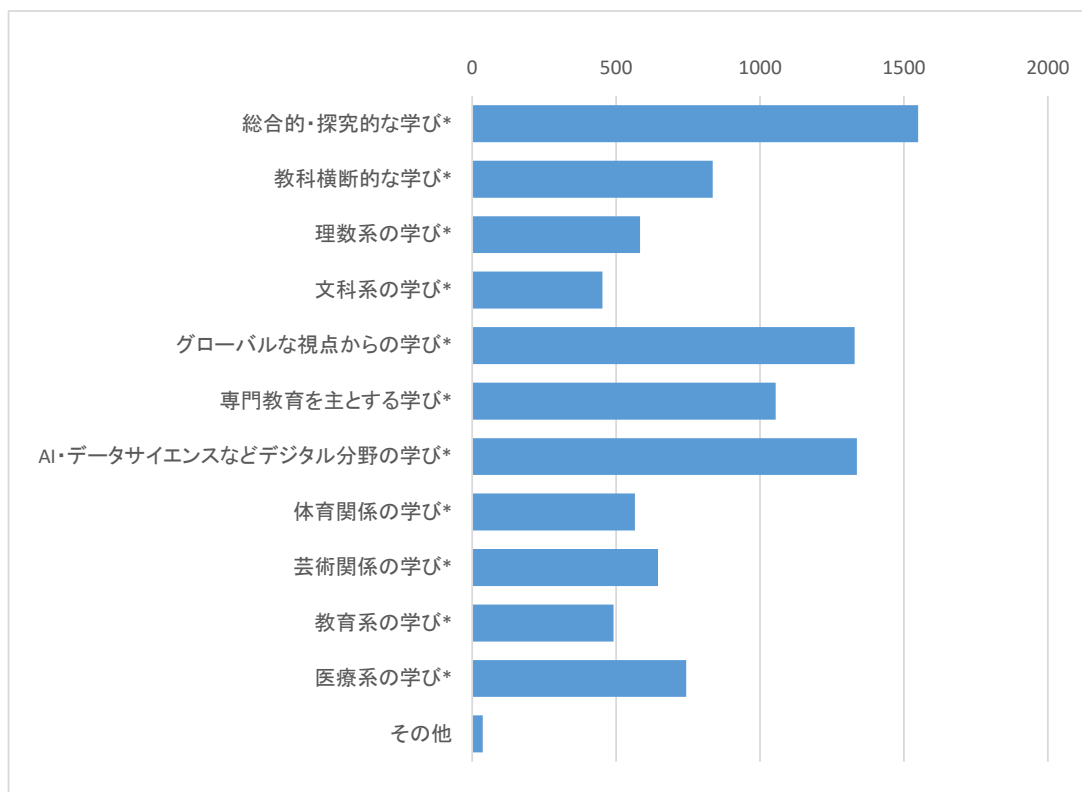


問 あなたが高校において「こんな学科やコースがあるといいな」と思うのは、どのような学びを重視した学科やコースですか？ 当てはまるものをすべて選んでください。すでにある項目以外にも、「その他」の欄に自由に記入してください。

(3) 高校生 有効回答数(5,784、54.69%)



(4) 高校保護者 有効回答数(2,836)



問 あなたが「こんな高校だったらいいな」と思うのは、1学年あたり、どのくらいの大きさ（生徒数）の高校ですか?当てはまるのを1つ選んでください。

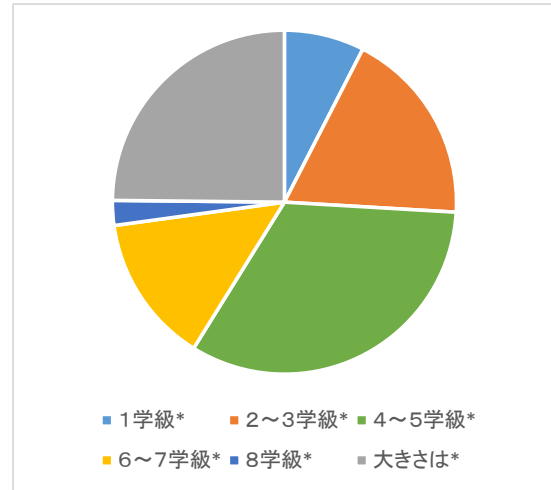
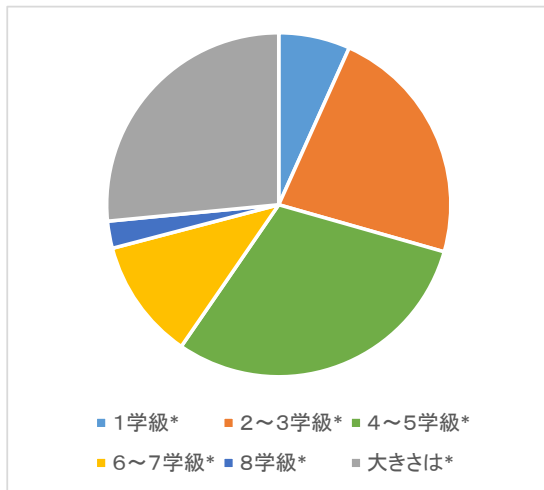
- ・ 1学級（1学年あたり40人以下）
- ・ 2～3学級（1学年あたり41人～120人）
- ・ 4～5学級（1学年あたり121人～200人）
- ・ 6～7学級（1学年あたり201人～280人）
- ・ 8学級以上（1学年あたり281人以上）
- ・ 大きさは特に気にしない

(1) 中学生

有効回答数(7,081、62.85%)

(2) 中学保護者

有効回答数(3,463)

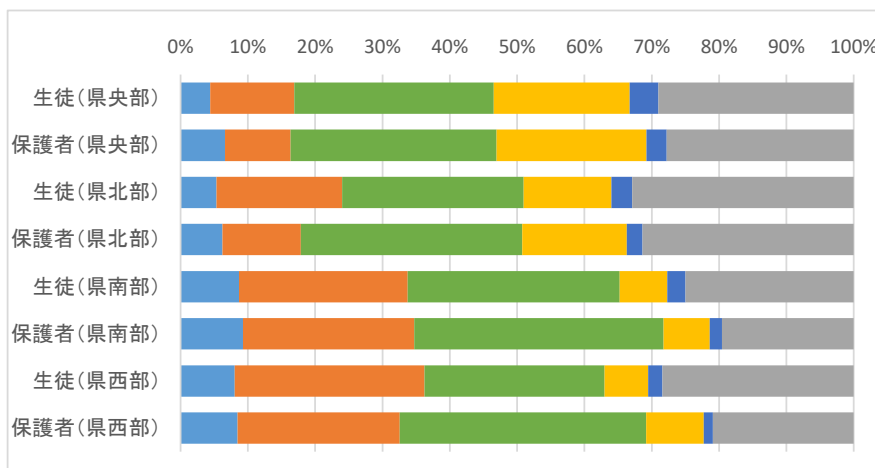
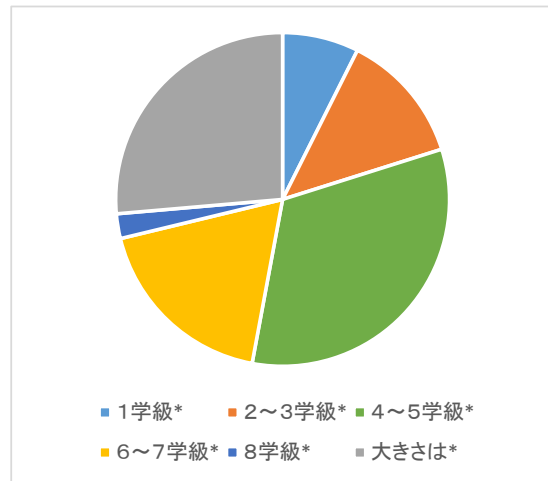
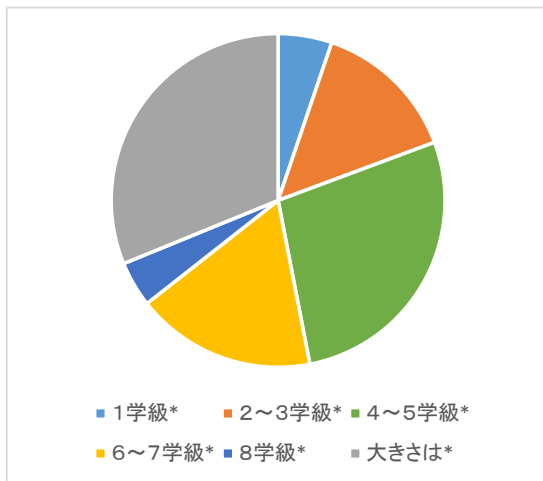


(3) 高校生

有効回答数(5,784、54.69%)

(4) 高校保護者

有効回答数(2,836)



- 県央部**
徳島市、松茂町、北島町、藍住町、佐那河内村、神山町
- 県北部**
鳴門市、板野町、上板町
- 県南部**
小松島市、阿南市、勝浦町、上勝町、那賀町、牟岐町、美波町、海陽町
- 県西部**
阿波市、吉野川市、美馬市、三好市、石井町、つるぎ町、東みよし町

問 進学先（高校）までの通学時間（片道）は、どのくらいまで可能であると考えています（いました）か？当てはまるものを1つ選んでください。

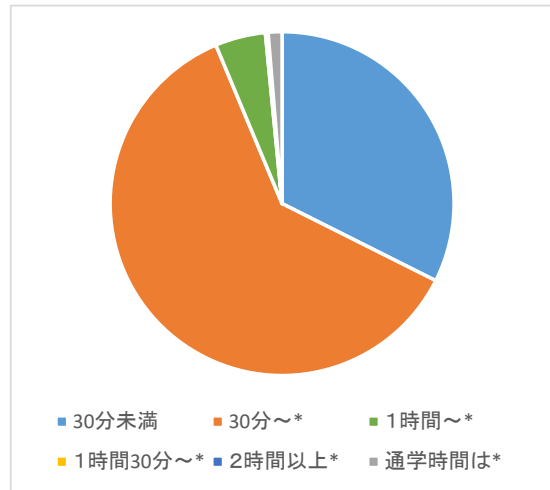
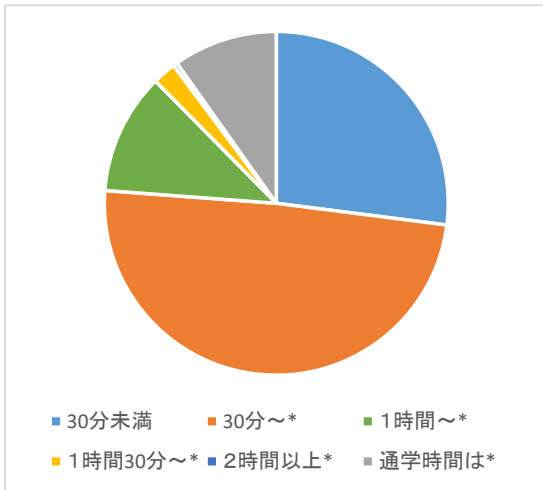
- ・ 30分未満
- ・ 30分～1時間未満
- ・ 1時間～1時間30分未満
- ・ 1時間30分～2時間未満
- ・ 2時間以上
- ・ 通学時間は特に気にしない

(1) 中学生

有効回答数(7,081、62.85%)

(2) 中学保護者

有効回答数(3,463)

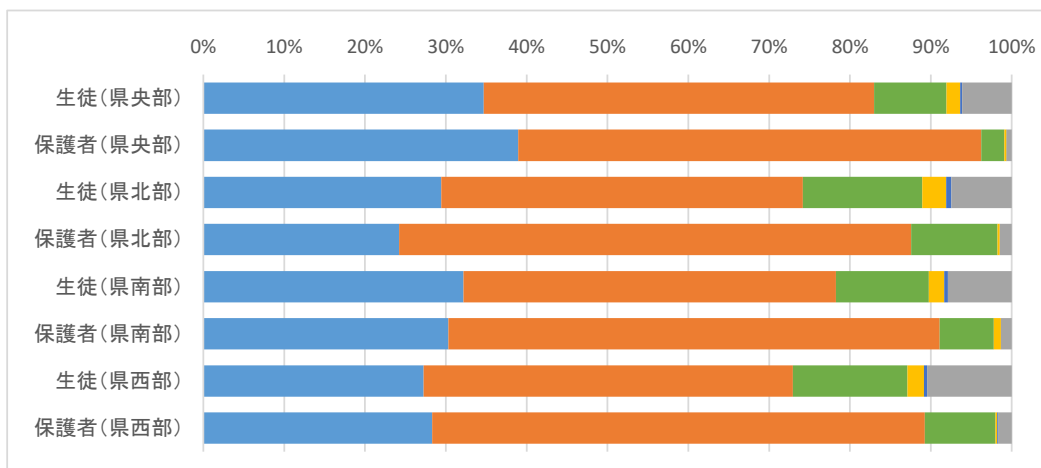
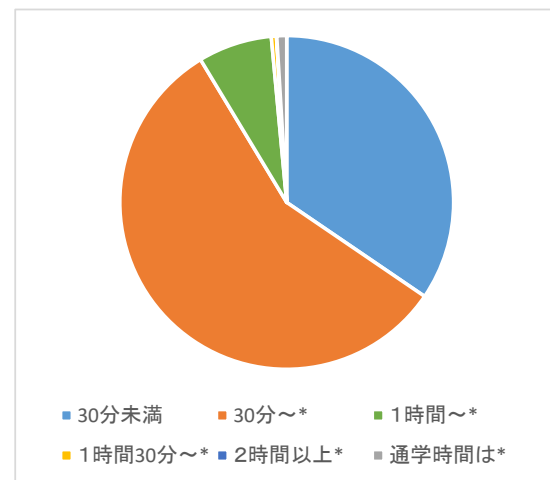
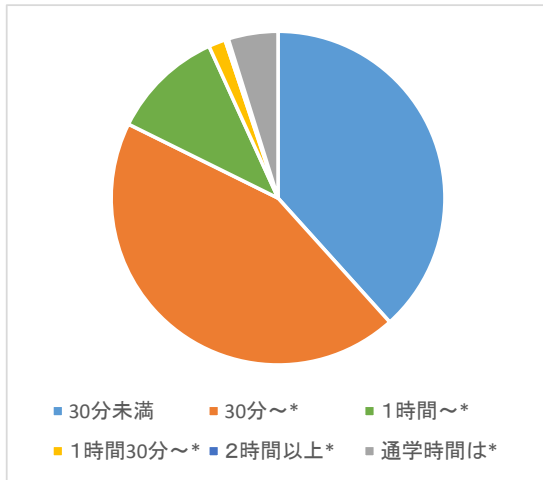


(3) 高校生

有効回答数(5,784、54.69%)

(4) 高校保護者

有効回答数(2,836)



公立高校のあり方に関するタウンミーティングでの主な意見

○牟岐会場（9月25日）

テーマ	カテゴリー	主な意見及び特徴的な意見
将来の高校の姿	地域との連携	・地域交流を積極的に行い、地域の特色を活かした教育。
	学びの内容	・生徒が夢や目標を見つげられる普通科以外（社会で必要なこと、体験）の学び。 ・質の高い教育を提供。
	環境	・文武両道で部活動に熱心に打ち込める環境。 ・防災拠点としての使命を果たせる学校。
	教育内容の充実	・地域特有の文化・伝統を学べる新たな学科の設置・カリキュラムの導入。 ・社会で必要なことを学ぶ体験型の学びの充実。 ・世界との繋がりを重視し、郡外・県外・海外から生徒が集まる特色を持つ。 ・地域の特色を活かした部活動の創設。
特色化・魅力化	交流・国際化	・留学プログラムの継続と充実による他校、他県、海外との交流の促進。 ・地域の方々からの温かい支援を受けられる学校。
	施設・環境	・校舎や設備の充実。地域の食材を活用した学食の充実。 ・部活動の指導者の確保やグラウンドなどの環境整備と部活動の魅力化。
	受け入れ体制・寮	・通学問題の解消にも繋がる寮の魅力化。 ・津波に強く安全でおしゃれな校舎の整備。 ・不登校の生徒や障がいのある生徒への合理的配慮など、多様な生徒を受け入れる体制の整備。
規模・配置	規模・配置	・今後の人口減少の中でも、1学年100人前後の一定の規模維持が必要。 ・県南にも複数の選択肢を提供できるような配置。
	地域での存続	・地域に高校を残すことを強く希望し、海部郡に1校はあって欲しい。 ・交通機関の移動手段の利便性の向上。

○三好会場（10月2日）

テーマ	カテゴリー	主な意見及び特徴的な意見
将来の高校の姿	地域との連携	・地域と連携し、地域と近い高校。地元を支える人材を育てる高校。 ・ローカリズムに縛られない子どもの特色を生かせる高校。 ・教育を核とした町づくり。
	教育内容と進路	・生徒の選択肢を確保し、様々なカリキュラムを提供する学校。 ・大学受験に向けてしっかり対策してくれる高校。
	校風と環境	・勉強・部活・学校行事など、何事にも頑張る雰囲気のある環境。
特色化・魅力化	地域連携と国際化	・地域とつながる外部（市、起業人、国際人）との交流。 ・国際科のある高校。 ・外国人（戦争孤児や避難民の子ども）の受入れ。ホストファミリーを作る。
	キャリア教育	・高校の専門性を強め、深い学びができる学校。 ・創業スキルが学べる学校。 ・いろいろな職業や立場の人の話が聞けたり、対話できたりする学校。
	地域固有の特色	・三好市に誇りを持てる、郷土愛を育む教育。 ・日本でその学校にしかないコース（酒、妖怪、ジオ、アニメなど）が学べる学校。
規模・配置	規模・配置	・1学年90～100人程度の一定の規模維持が必要。 ・1クラス10～20の少人数教育を希望。 ・旧三好郡内に1校は高校が必要。統合を進め、各市に1校で十分。
	統合の範囲	・生徒数のさらなる減少に備え、池田本校、辻校、三好校、つるぎ高校商業科までが統合の視野に入る。
その他	学校運営	・生徒が主体の学校（自由だけでなく責任を学ぶ）。 ・失敗を評価してくれる学校。 ・県内の高校同士で簡単に転校できる。

○美馬会場（10月6日）

テーマ	カテゴリー	主な意見及び特徴的な意見
将来の高校の姿	教育内容と進路	・就職や進学につながる体験や学びを充実させ、多様な進路実現を図ることができる高校。
	教育方針と人材育成	・専門性の高いコースを選択できる高校。 ・生徒主体の活動を重視する学校。 ・高校は大学のように専門分野に特化するのではなく、幅広く必要な資質・能力の育成に注力すべき。
	地域連携	・地元地域や小中学校と繋がれるような学校。 ・地域に愛着を持ってもらえる教育内容。 ・地元の良さを発信できる人材を育てる学校。
特色化・魅力化	学科・コースの多様化	・職業科・ゲーム科・マンガ科・eスポーツ科など、特徴的な学科を新設する。 ・複数の学科（普通科、工業科など）を持つ高校。
	進路・キャリア	・地元の高校でも将来の夢を諦めなくていいような学校。
	地域連携と教育内容	・地元の特色や産業を知ること、地域愛を育成するような学校。 ・思い切った特色化を図るため、「捨てること」も必要。 ・自然や農業など、都会にはないことで勝負する。
	施設・環境整備	・他県や県東部に負けない校舎等や、（寮の代わりに）空き家を活用した住環境の整備。 ・地域の方を雇用し、特産品を生かした学食の運営。
規模・配置	規模の必要性	・様々な選択肢を与えるためにも、1学年270人程度の大規模高校が必要。 ・小・中・高連携した学校の設置（美馬・三好地区を一つに考えて）。 ・高校を統合し、カレッジタウンのようにハイスクールタウンをつくる。
	小規模校の維持	・少人数でも学校を維持してほしい。 ・一人一人に手厚い指導ができる小規模校も必要。
	地域ごとの配置	・市町が活性化するためにも、郡市に一つは高校が必要（高校がなくなると地域は衰退する）。
その他	施設等への要望	・築年数が50年以上の古い学校ばかりで、新校舎を建てるべきだった(取り組むのが20年遅い)。
	通学への配慮	・通学のための交通手段の確保、経済格差が生じないようにしてもらいたい。

○吉野川会場（10月8日）

テーマ	カテゴリー	主な意見及び特徴的な意見
将来の高校の姿	教育環境	・自己調整力を培うため、カリキュラムに余白を作る。 ・自分で試行錯誤したり、マイプロジェクトに取り組んだりする機会を提供。 ・しがらみのない Freedom を重視し、起業家の育成を目指す。
	人材育成	・地域の魅力を維持できるような人材の育成、地域産業に貢献できる学校が求められる。 ・一次産業が強い地元で働きたいと思える郷土愛を持つ生徒を育成すること。 ・世界や日本全国で活躍できる人材の育成（ハイタレント教育の推進）も重要。
	個に応じた学びの実現	・個に応じた多様な学びの選択肢としての学校（通信制を含む）が必要。 ・学びの多様化への対応（県立の広域通信制、エンカレッジスクール）。 ・生きる力や人権を大切にすることが学べ、生徒が主体である学校が望ましい。
	特色ある専門性	・スポーツや勉強など、ここに進学するという特色を持った専門性のある学校。
特色化・魅力化	地域・産業連携	・大学・企業と連携したカリキュラムをもち、企業や地域産業の方の授業を受けるなど、地域の人材を活用した教育を行うべき。 ・地域との連携が円滑になるよう、コーディネーター人材の確保・配置が望ましい。
	多様な教育内容	・デジタル、アート（これまでのものと異なるもの）、外国語を重視する。
	ユニークな専門分野	・徳島の特色が学べる、専門的な学科（観光や阿波踊り）を持つ高校。 ・実業系学科の充実や英語教育の充実（バカロレア校）も図るべき。
規模・配置	規模の多様性と地域均衡の維持	・交通の便もあわせて配置を考える必要があり、一地域（徳島市内）に集約する必要はない。 ・各地域に最低限の規模の高校が必要であり、各市町に1校の配置が理想。
	望ましい規模	・1学年150人、20校程度。あるいは1学年4学級以上、全体で500人規模。
その他	学校運営と地域社会との連携	・高校の再編・統合に関して、行政も参画し、町づくりのビジョンと関連付けて検討すべき。 ・小・中・高一貫の学校や、小規模校同士でのリソース共有を進めるべき。

さらなる特色化・魅力化について

- 1 新学科・コース設置等の検討
 - ・総合的・探究的な学び
 - ・グローバルな視点からの学び
 - ・デジタル分野の学び など

- 2 コーディネーターの配置

- 3 全国募集の推進

- 4 情報発信の強化

- 5 人的・物的・財政的支援

学校規模・配置について

【論点1】適正な学校規模・配置について

<観点>

- ・教育の質の維持・向上
- ・教育機会の均等
- ・地域振興の核としての役割
- ・遠隔授業の活用
- ・学校規模や再編に関する基準等の必要性

【論点2】一定の学校規模を確保する高校（普通科の拠点校）について

- (1) 県西部・県南部における指定・整備について
- (2) 学校規模について

<観点>

- ・多様な進路実現に対応
- ・教育の質の確保と多様性の維持
- ・多様な選択科目・活動の運営
- ・通学許容範囲における高校配置
- ・県内教育環境の公平性
- ・徳島市内への志願者集中対策